障害のある人と企業を結ぶ情報紙

埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

サポセンだより

第6号
2022.10

「サポセン」は、埼玉県障害者雇用総合サポートセンターの愛称です。

特集　障害者のテレワーク　先進企業インタビュー

　多様な働き方の広がりや新型コロナウイルス感染症の感染予防対策から、企業においてテレワークは急速に普及しています。
　埼玉県では障害者雇用においてもテレワークを推進し、その普及のため啓発をしていきたいと考えています。今回は、障害者のテレワークについて先進的な取り組みをされている企業を御紹介します。

「進取の精神」で
テレワークを推進

株式会社　沖ワークウェル

■企業概要

名　　称　株式会社沖ワークウェル(通称：OKIワークウェル)
(沖電気工業株式会社(通称：OKI)の特例子会社)

※特例子会社制度
　障害者の雇用の促進及び安定を図るため、事業主が障害者の雇用に特別の配慮をした子会社を設立し、一定の要件を満たす場合には、特例としてその子会社に雇用されている労働者を親会社に雇用されているとみなして、実雇用率を算定できる制度。

所 在 地　東京都港区芝浦4-10-16　(本社)
埼玉県蕨市中央1-16-8　(蕨事務所)

事業内容　
◆テレワーク(在宅)勤務社員
ホームーページ制作、システム開発
似顔絵・ポスター制作、名刺作成、
委託訓練・職場実習、データ入力・加工　等
◆通勤社員
名刺の印刷、裁断、データスキャニング、
シュレッダー、構内・屋外清掃、
委託訓練、データ入力・加工　等

従業員数　91名(本社、蕨事務所 合計)

障害のある従業員数　81名(うち在宅66名)
※テレワーク(在宅)勤務社員は社内で「OKIネットワーカーズ」と呼ばれている。

取材にお伺いした蕨事務所

蕨駅から徒歩7分
OKIグループのシステムセンターに併設されています。

■株式会社沖ワークウェルのテレワーク雇用

　66名のテレワーク(在宅)勤務社員は、1年を通して会社への出社義務はなく、後述のワークウェルコミュニケータというツールで会社と連絡をとりながら、自宅で名刺等の似顔絵デザイン、ホームページの制作、システム開発、データ入力等の業務をしている。

　勤務時間は8時～20時15分の間で、6時間勤務のフレックス制。通院やヘルパーが入る時などの中抜けもOK。食事に時間がかかる場合などは休憩時間も長くして良いなど多くの配慮がされている。

　テレワーク(在宅)勤務社員の所在は北は北海道から南は鹿児島まで、全国22都道府県に広がる。どんな仕事環境かを把握するため、採用の際は必ず本社社員がテレワーク(在宅)勤務社員の自宅を訪問するとのこと。

　年1回の懇親会(コロナ禍のため近年は未実施)では、全国から社員が集まる。「普段は声だけとなってしまう社員の元気な顔を見るのが本当に楽しみ」と堀口社長。

代表取締役社長　堀口（ほりぐち）　明子（あきこ）　さん
チームマネージャー　加藤（かとう）　哲義（てつよし）　さん
にお話を伺いました。

インタビューに答える
堀口社長(手前)と
加藤チームマネージャー(奥)

テレワーク活用のきっかけ

OKIグループの理念に「進取の精神」というものがあります。

これは、従来の慣習にとらわれず新しいことに挑戦していくというもので、1881年のOKI創業以来、グループ社員の中で常に意識されています。

我々のできる社会課題解決への貢献として障害者の雇用を考えた時、「毎日、会社へ来なければならない」ということに縛られる必要はないのではないか、自宅にいながらにして仕事ができる仕組みをつくれば良いのではないかと発想の転換をしたことがきっかけです。

仕組みづくりには、我が社の得意とする情報通信技術が非常に役立ちました。重度の障害等で通勤が難しいながらも、優れた能力のある方を生かすことができていると思います。

我が社には、知的障害のある通勤社員もおりますが、彼らにも在宅勤務ができるよう準備をしました。新型コロナウイルス感染症の予防対策の一環で、実際にテレワーク（在宅）で仕事をしてもらっています。

チャレンジ精神

テレワーク・通勤に拘わらず、社員には常にチャレンジをしていってほしいと思っています。

例えば、知的障害のある通勤社員には、先日アビリンピック（全国障害者技能競技大会）に挑戦してもらいました。今回はチャレンジでの参加でしたが、良い経験になったと思います。

また、テレワークの社員も同じで、適性を見て、新しい技術や機会に挑戦してもらいキャリアアップを図っています。

昨年はOKI創立140周年で、記念論文の募集にも多くの社員に応募してもらいました。

採用の時に重視しているのもこの点で、例えば情報通信技術のスキルは入社後でも取得できますが、新しいことに取り組む姿勢、これを持っている方と仕事をしたいですね。

仕事の進め方

テレワーク（在宅）勤務社員は、2チーム7グループに分かれて業務を行っています。それぞれのグループにまとめ役としてコーディネーターがいて、外部との交渉やマネジメント的な業務をしています。

このコーディネーターを中心に、頻繁にオンラインでグループ討議をしており、業務の効率化やスキルアップについても話し合っています。

話し合いの中で、各人の得意分野ややりたい業務がわかってきます。細分化した仕事を得意不得意に応じてコーディネーターがグループのメンバーに振り分けています。

得意な仕事をすることで、楽しく仕事ができるしノウハウも深まり、当然仕事の効率化にもつながります。

一つの分野に秀でた人は、OJTを進めるうえで重要な要素となります。得意分野の経験や知識を社員間のインターフェースとなって学びとして広めてほしいと思います。

目指すもの

社員には、「どういった仕事をしたいか」、「どんな人間になりたいか」を見定めていってほしいと考えています。

「なりたい自分」に向かって、安心して働ける場を提供し、働きながら活躍できる環境を作っていきたいといつも思っています。

OKIが創業150周年を迎える2031年には、重度障害者のテレワーク企業として「No.1ブランド」を確立できるように、中期経営計画を策定し、取り組んでいます。

課題はあり、試行錯誤を繰り返していかなければなりませんが、一つひとつクリアし目標達成を目指していきたいです。

ワークウェルコミュニケータ®

OKIワークウェルでの在宅勤務で、仕事のやり取りの中心となるツール「ワークウェルコミュニケータ」。
システムエンジニアでもある加藤チームマネージャーが自ら開発した「在宅勤務向けバーチャルオフィスシステム」です。

加藤チームマネージャーは、「メールだと細かいニュアンスが伝わらないから、音声でのコミュニケーションを大切にしたかった」、「電話だと利便性に欠けるので、話をしたい時に簡単に連絡できることを重視した」と開発の目的をおっしゃっています。

実際にシステムを使っている様子を見ると、常に勤務されている方のいろいろな音声が入り、さながら職場で仕事をしているような臨場感がありました。加藤チームマネージャーによると「テレワーク（在宅）勤務にありがちな孤独感や疎外感を無くすことも大事」、「職場にいるような雰囲気を感じることで、仲間とつながっている安心感を得られる効果もある」とのこと。

キーボードやマウスの操作が不自由な方のため、ボタンを大きく表示

ワークウェルコミュニケータの使用画面。画面右に表示される参加メンバーのうち、話したい人にPCのマイクで呼びかければ、すぐに会話可能となる。また、左下部の会議室を示す1〜9の番号のいずれかに複数名を呼び出せば、呼び出されたメンバーのみで会話可能。

このシステムは知的障害のある通勤社員も、新型コロナウイルス感染症の予防対策でテレワークをした際に、問題なく使用している。

サポセン 当事者 インタビュー①

OKIワークウェルに勤務して10年目、通勤社員として蕨事務所に勤務されている反町 稲太さんにお話を伺いました。

Q どんなお仕事をしていますか?

A パソコンのデータ入力、消耗品補充、名刺作成、社内便の送付、会議室清掃など様々です。

Q OKIワークウェルに就職するきっかけは？

A 10年前、通っていた特別支援学校に勧められてOKIワークウェルで実習した時に、上司にほめられたのが嬉しかったからです。

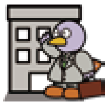
Q テレワークをしたことがありますか?

A コロナの感染防止対策で今年の2月に3日間在宅勤務をしました。入力データのチェックで1日中パソコンを見ていました。正直、会社で仕事をした方が良いです(笑)。

Q 今後どんな仕事をやりたいですか?

A パソコンを使った仕事をもっとしたいです。皆で力を合わせて仕事することが楽しいです。

反町さん
「定年までOKIワークウェルに勤めたいです」



サポセン 当事者 インタビュー②

兵庫県在住ながら、テレワークを活用してOKIワークウェルに勤務し1年目、H･Sさんにお話を伺いました。
（ワークウェルコミュニケータを使用してインタビュー）

Q どんなお仕事をしていますか?

A OKIワークウェルは、障害者委託訓練（県の委託事業）と言って障害のある方が社会で活躍できるよう訓練をしているのですが、訓練の指導員としてパソコン事務や在宅勤務の業務について指導しています。

Q OKIワークウェルに就職するきっかけは？

A 私は重度障害があり、私自身がOKIワークウェルで障害者委託訓練を受けていたのですが、その時先輩の方々がワークウェルコミュニケータを使って、声だけで生き生きと仕事をしているのを目の当たりにして、当時持っていた就労へのあきらめが取り除かれたからです。

Q テレワークの感想は？

A 重度障害者の私でも、通勤の心配がありません。安心感を持って滞りなく仕事ができるし、家にいながら仕事と生活の切り替えができます。

Q ワークウェルコミュニケータの感想は？

A システム内の会議室を使って頻繁に打合せできるのが便利です。会議の参加人数が増えると発言者がわかりにくくなるのが課題と感じます。

Q 今後どんな仕事をやりたいですか?

A まだ1年目なので（笑）、先ずは今の仕事を一生懸命やりたいです。ただ、テレワークにより将来に向けて希望を持って仕事ができています。

【お知らせ】
週20時間未満からの障害者雇用を支援します

週20時間未満から雇用して徐々に労働時間を増やし週20時間以上の雇用にしませんか？

埼玉県障害者雇用総合サポートセンターでは

- 雇用前の受入準備から個々の事業所に適した人材のマッチングを支援します。
- 雇用後週２０時間以上へのステップアップや職場定着まで、伴走してサポートします。

主な支援内容

- 社内コンセンサス、準備、作業環境、設備環境等雇用管理について具体的改善提案
- 仕事の切り出し方、働き方の工夫、業務手順の改善、配慮事項、職場環境の調整等
- 短期雇用体験利用（1日2時間×2日～）の提案
- ジョブコーチ利用の提案
- 関係機関と連携して企業をサポート　　他

【お問合せ先】　埼玉県障害者雇用総合サポートセンター
専任コーディネーターまで　TEL:0120-540-271

埼玉県障害者雇用総合サポートセンターご案内

　埼玉県障害者雇用総合サポートセンターは、埼玉県が運営する企業の障害者雇用を支援する専門機関です。

「企業の障害者雇用を全力でサポートします！」

1 雇用に適した仕事を提案します

2 雇用体験ができます

3 働きやすい職場づくりを助言します

4 職場に付き添って支援します

所在地
〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎 別館1階

利用時間
月～金　午前8時30分～午後5時
（祝日及び12/29～1/3を除く）

ホームページはこちらから

雇用開拓業務部門

　障害者雇用開拓員が企業を訪問し、障害者雇用制度の仕組みや各種支援について情報提供します。

☎ 048-822-3111

企業支援業務部門

　障害者雇用に向けて、専門のアドバイザーが具体的な助言・提案をします。
　短期（3日～5日）の雇用体験（職場体験実習の受入れ）ができます。

☎ 048-827-0540

定着支援業務部門

　障害のある人が職場に適応できるよう、ジョブコーチを派遣しサポートします。
　支援機関のスキルアップもお手伝いします。

☎ 048-823-9020

障害者雇用に関するちょっとした困りごとは「障害者雇用ヘルプデスク」にお電話ください。

障害者雇用ヘルプデスク
☎ 0120-540-271（ヨウヌツナイデ）

　埼玉県では、障害者雇用のメリットやサポセンの支援をYouTube埼玉県公式チャンネルから「サポセンＰＲ動画」の配信をしています。
　短時間の見やすい動画です。
　ぜひ一度ご覧ください。

サポセン全体編（約10分）

動画はこちらから

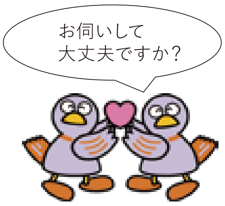
雇用開拓部門編(約5分)

動画はこちらから

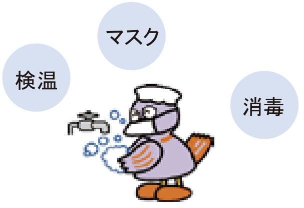
サポセンの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

　サポセンでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組みながら、雇用開拓、研修・セミナー、個別企業支援、ジョブコーチ派遣などの各種支援を行っています。
　企業、支援機関の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

企業や障害のある人の意向を最優先にします。



サポセンスタッフは、感染予防を徹底します。



状況により支援の中止をお願いすることがあります。

発行：埼玉県産業労働部雇用労働課　障害者雇用総合サポートセンター